

情報提供事業

様式1

No	1	中央公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		館報「中央公民館だより」の発行 発行部数：4,000部 仕　　様：A3両面刷り、2つ折り	—		
2	情報発信事業		HPやInstagramを活用した情報提供発信 ・HPへの館報掲載 ・Instagramへの各種講座の案内掲載	—		
3						
4						
5						

様式1

No	2	上川淵公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		上川淵公民館報の発行 発行部数：11,400部（1ヶ月あたり） 使 用：A4両面刷り（白黒）	—		
2	情報発信事業		ホームページ等を活用した情報提供の充実	—		
3	公民館DX事業	実習	上川淵スマホ講座（※）	実10388152 報10458264		
4	公民館DX事業	実習	デジタルよろず相談	実10388152 報10458264		

様式2-1

【事業の概要】

No	2	上川淵公民館		経費	¥26, 000		
事業名	情報提供事業			講座区分	公民館DX事業		
講座名	上川淵スマホ講座						
ねらい	① コロナ禍においてより一層デジタル化が加速し、それに対応するためスマートフォンを学ぶ機会を設けることで、デジタル・デバイドを解消する。 ② スマートフォンを活用することで、市民の利便性を高める。						
対象	☐ 乳幼児	☐ 小学生	☐ 中学生	☐ 高校生	☐ 保護者	☒ 一般	☐ 高齢者
周知	☒ 館報	☐ HP	☒ チラシ	☐ その他（ ）			
回	月日		学習主題・内容			講師謝礼金額	実費負担金額
	開始	終了				講師名	
	定員	参加者					
1	2月26日（水）		スマートフォンを使うための基礎知識と基本的な操作方法			13, 000円	300円
	13:30	15:30				特定非営利活動法人 教育支援協会北関東 講師2名、協力者1名	
	15	15					
2	2月27日（木）		LINEの基本的な使い方			13, 000円	300円
	13:30	15:30				特定非営利活動法人 教育支援協会北関東 講師2名、協力者1名	
	15	14					
3			1と2の連続講座				

【事業の評価】

評価項目	評価	評価の根拠等
社会的課題や、地域の課題にこたえているか	◎	高齢者のスマホ操作リテラシーを支援している
地域のニーズにこたえているか	◎	募集開始1日めで定員に達した
企画・事前準備は十分であったか	○	企画は前担当者の考えを踏襲し、館長と相談した
学習者の満足度はどうであったか	◎	アンケート結果による
学習グループ化や人材育成など、学習成果を地域に還元・波及できたか	△	スマートフォン学習グループまでは作れなかった
事前広報を含め、よりよい周知活動が行えたか	◎	館報のみの周知とすることで、上川淵地区在住在勤者のニーズに答えられた

※成果が十分「◎」、概ね十分「○」、不十分「△」、成果なし「■」で評価 ◎=50点、○=40点、△=30点、■=20点で計算し平均点を求める	平均点	45
---	-----	----

事業の総合評価	B	※平均点50点以上=A、40点以上50点未満=B、30点以上40点未満=C、30点未満=D
感想・意見	70歳代～90歳代までのスマートフォン操作に自信のない方の要望に答えることができたと思っている。また、高齢の方で若い人と交流のある方でも、なかなか人に教えてもらうことをためらうかたの要望にも答えられたと思う。講座後にデジタルよろず相談を実施することにより、フォローアップもできた。今後も、結果的に高齢者のためになるスマートフォン講座を実施していきたい。	
改善点	特になし。 あえて言えば、指定よろず相談に交通弱者のために行くことができない人のために要望デジタルよろず相談を2回以上実施し、スマートフォン講座の予習・復習の手助けが出来たら良いと思う。	

次年度の事業継続の評価	維持	※事業の必要性・重要性を鑑み、「拡充」「維持」「見直し」「改善」「廃止」で評価
主な理由等	まだまだ、スマートフォンの操作を学びたい市民（特に高齢者）の要望は高いため。	

留意事項等	
-------	--

写真なし	写真なし

様式1

No	3	下川淵公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報提供事業		「館報下川淵」の発行 発行部数：3,724部（毎戸配布） 仕 様：A3両面刷り、2つ折り 特記事項：毎月1日発行と文化祭特別号発行	—		
2	情報提供事業		ホームページを活用した情報提供の充実 ・館報をホームページに掲載 ・講座募集案内をホームページに掲載	—		
3	情報提供事業		「下川淵アイアイ」の発行 発行部数：3,724部（毎戸配布） 仕 様：A3両面刷り 特記事項：毎月1日発行、編集委員は各種団体から選任	—		
4						
5						

様式1

No	4	芳賀公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		芳賀公民館報の発行 発行部数：3,500部 仕 様：A4両面刷り	—		
2	情報発信事業		ホームページ等を活用した情報提供の充実 館報、各種講座開催のお知らせ等の掲載	—		
3						
4						
5						

様式1

No	5	桂萱公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		公民館報桂萱の発行 ・毎月発行する ・発行部数13,000部、フルカラー、担当者が作成	—		
2	情報発信事業		ホームページやInstagramを活用した情報提供の充実 ・館報をホームページに掲載 ・Instagramに各種講座や行事案内を掲載	—		
3	公民館DX事業	実習	桂萱スマホ教室（※） はじめてのLINE（スマートフォンの基礎、LINEの使い方）	実10153975 報10224697		
4	公民館DX事業	実習	秋の桂萱スマホ教室 LINEを使いこなそう（スマートフォンの基礎、LINEを使ったQRコードの活用）	実10240884 報10282894		
5	公民館DX事業	実習	インターネット(タブレット)体験会&クールシェア	実10240884 報10224615		
6	公民館DX事業	講義	オンライン講座 「環境講座～へちまたわしをつくろう！～」	実10364301 配10388267		

様式2-1

【事業の概要】

No	5	桂萱公民館			経費	—	
事業名	情報提供事業				講座区分	公民館DX事業	
講座名	桂萱スマホ教室						
ねらい	① コロナ禍を機に加速したデジタル化に対応するためスマートフォンを学ぶ機会を設けることで、デジタル・ディバイドを解消する。 ② スマートフォンを活用することで市民の利便性を高める。 ③ 企業が行う社会貢献事業の積極的な活用						
対象	☐ 乳幼児	☐ 小学生	☐ 中学生	☐ 高校生	☐ 保護者	☒ 一般	☒ 高齢者
周知	☒ 館報	☒ HP	☒ チラシ	☒ その他（Instagram）			
回	月日		学習主題・内容			講師謝礼金額	実費負担金額
	開始	終了				講師名	
	定員	参加者					
1	7月29日（月）		はじめてのLINE ・スマートフォンの基礎 ・LINEの使い方			—	—
	14:00	16:00				ソフトバンク株式会社	
	20	7					

【事業の評価】

評価項目	評価	評価の根拠等
社会的課題や、地域の課題にこたえているか	○	誰一人取り残されることのないようデジタル化への対応として学習機会の提供ができた
地域のニーズにこたえているか	○	一度受講しても忘れてしまうという方のために基礎から活用までを1つの講座の中で行えた
企画・事前準備は十分であったか	○	対象となる受講者をイメージしながらやさしい講座の企画が行えた
学習者の満足度はどうであったか	△	もっと相談しながら個別に学習したい様子であった
学習グループ化や人材育成など、学習成果を地域に還元・波及できたか	○	学習内容を復習し、進んで習得しようという意欲がうかがえた
事前広報を含め、よりよい周知活動が行えたか	△	もっと積極的に声かけやチラシ配布をし高齢者向けの周知も必要だと感じた

※成果が十分「◎」、概ね十分「○」、不十分「△」、成果なし「■」で評価

◎=50点、○=40点、△=30点、■=20点で計算し平均点を求める

平均点 37

事業の総合評価	C	※平均点50点以上=A、40点以上50点未満=B、30点以上40点未満=C、30点未満=D
感想・意見	普段スマートフォンを持っても、電話機能しか使っていないという方がおり、今回のスマホ教室でスマートフォンでできることを多く知っていただけたことはよかった。文字入力が苦手な方には音声入力ができることなど、講師の方が親切に、苦手意識を持たせないよう指導されていたので受講者は積極的に新しい機能を習得することができた。習うより慣れることがとても大切なため、実際に操作をしてもらう時間が多かったのはよかった。受講者の意欲的、積極的に学ぶ姿勢から学習へのきっかけ作りができたことはうれしかった。	
改善点	習ったことを忘れてしまうから何度もスマホ教室を受講したいという方がいるため、なるべく多くの機会の提供ができるように講座数を増やしたい。	

次年度の事業継続の評価	維持	※事業の必要性・重要性を鑑み、「拡充」「維持」「見直し」「改善」「廃止」で評価
主な理由等	社会のデジタル化が進み、スマートフォンでできる可能性が日々増える中、誰一人取り残されることのないようデジタルディバイド解消に向けた取り組みは今後も求められるものであり、その機会の提供は続けて行く必要があるため。	

留意事項等	
-------	--

	
スマホ教室の様子1	スマホ教室の様子2

様式1

No	6	東公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	公民館DX事業	実習	東公民館情報提供事業「東スマホ教室」 (※)	実10285962 報10352466		
2	情報発信事業		公民館報「あずま」を発行 毎月発行 発行部数15,100部	—		
3	情報発信事業		ホームページを活用した情報提供の充実 ・館報をホームページに掲載 公民館内モニターにて来館者へ情報提供 ・自主グループのかつ紹介を兼ねて、文化祭の様子を上映	—		

様式2-1

【事業の概要】

No	6	東公民館			経費	—		
事業名	情報提供事業				講座区分	公民館DX事業		
講座名	東公民館情報提供事業「東スマホ教室」							
ねらい	① I T技術の進化による急速なデジタル化に対応するため、スマートフォンを学ぶ機会を設けることにより、デジタル・ディバイドを解消する。 ② スマートフォンの活用により住民の利便性を高める。 ③ 企業が行う社会貢献事業を積極的に活用する。							
対象	☐ 乳幼児	☐ 小学生	☐ 中学生	☐ 高校生	☐ 保護者	☒ 一般	☒ 高齢者	
周知	☒ 館報	☐ H P	☒ チラシ	☐ その他（ ）				
回	月 日		学習主題・内容				講師謝礼金 額	実費負担金 額
	開始	終了					講師名	
	定員	参加者						
1	12月9日（月）		スマートフォンの基礎、L I N Eの使い方				—	—
	14:00	16:00					ソフトバンク(株) スマホアドバイザー	
	20	17						

【事業の評価】

評価項目	評価	評価の根拠等
社会的課題や、地域の課題にこたえているか	○	スマホに苦手意識を持つ高齢者は多いため
地域のニーズにこたえているか	○	特に高齢者にとってはスマホへの関心が高いため
企画・事前準備は十分であったか	○	企画、講師との調整、内容の確認等、余裕をもって準備をすることができた
学習者の満足度はどうであったか	○	アンケートによる満足度も概ね好評だった
学習グループ化や人材育成など、学習成果を地域に還元・波及できたか	△	講座の内容的には、直接地域への還元は見込みないが、スマホを通じて他者との交流に役立ててもらえればと思う
事前広報を含め、よりよい周知活動が行えたか	△	館報やチラシによる周知により、募集定員に達することはできた
※成果が十分「◎」、概ね十分「○」、不十分「△」、成果なし「■」で評価 ◎＝50点、○＝40点、△＝30点、■＝20点で計算し平均点を求める		平均点 37

事業の総合評価	C	※平均点50点以上＝A、40点以上50点未満＝B、30点以上40点未満＝C、30点未満＝D
感想・意見	今回の講座はスマホの初心者向けのものだったが、募集して2日ほどで定員に達するなど、関心の高さが伺えた。講座は、会議室のスクリーンにテキスト等を映し出して説明を行う講師が1名、全体を見回り参加者の個別の質問に答える講師が1名という体制で丁寧に研修を行った。スマホの持ち方といった初歩的なところから始め、最後はLINEのやり取りまで進め、一通りの使い方を十分ではないが自分のペースで学ぶことができたと思う。参加者のスマホを学びたいという熱意がひしひしと伝わってくるほどだった。これを機に、少しでもスマホに触れてもらい、スマホがさらに身近なものになればと思う。	
改善点	初心者向けの講座として開催したが、初心者でも、ある程度スマホについての知識に差があるため、初心者度の設定が難しかった。募集時にもっと細かく条件を設定したほうがよいと思った。	

次年度の事業継続の評価	維持	※事業の必要性・重要性を鑑み、「拡充」「維持」「見直し改善」「廃止」で評価
主な理由等	スマホに苦手意識を持つ高齢者にとって、情報収集やコミュニケーション促進の手段としてスマホを利用することは大変有益であるため、今後も実施を検討していきたい。	

留意事項等	
-------	--

	
東スマホ教室	東スマホ教室

様式1

No	7	元総社公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		館報「かんぽう元総社」の発行 発行部数：9,100部 仕　　様：A3両面刷り、2つ折り	—		
2						

様式1

No	8	総社公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		総社公民館報の発行 発行部数：毎月6,437部 仕　　様：A3両面刷り	—		
2	情報発信事業		ホームページ等を活用した情報提供の充実 館報、各種講座開催のお知らせ等の掲載	—		
3						

様式1

No	9	南橘公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業 変更なし		南橘公民館報の発行 発行部数：18,000部 仕　　様：A4両面刷り	—		
2	情報発信事業 変更なし		ホームページ等を活用した情報提供の充実 館報、各種講座開催のお知らせ等の掲載	—		
3						

様式1

No	10	清里公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報提供事業		清里公民館報の発行 発行部数：毎月1,315部 仕　　様：A3両面刷り	—		
2	情報提供事業		ホームページ等を活用した情報提供の充実 ・館報、各種講座や行事案内を掲載	—		
3						

様式1

No	11	永明公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		館報「えいめい」の発行 発行部数：10,000部 仕　　様：A4両面印刷	—		
2	情報提供事業		ホームページによる情報提供（館報「えいめい」の最新号とバックナンバー、各種行事、学習グループの紹介ほか）	—		
3						

様式1

No	12	城南公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		城南公民館報の発行 発行部数：6,350部 仕　　様：A4両面刷り	—		
2	情報発信事業		ホームページ等を活用した情報提供の充実 館報、各種講座開催のお知らせ等の掲載	—		
3	情報発信事業		公民館報に連載した「城南地区歴史散歩」をまとめた冊子200部の発行	—		
4						

様式1

No	13	大胡公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		館報「大胡公民館報」の発行 発行部数：6,630部 仕 様：A4両面刷り	—		
2	情報発信事業		ホームページを活用した情報提供の充実 ・館報をホームページに掲載	—		
3	公民館DX事業	実習	スマホ教室（※） ・Aコース ・Bコース	実10344904 報10402037		

様式2-1

【事業の概要】

No	13	大胡公民館			経費	16,000円		
事業名	情報提供事業				講座区分	公民館DX事業		
講座名	スマホ教室							
ねらい	① デジタル化が急速に進む中で、世代等による情報格差の解消を目指して学習機会を提供する。 ② スマートフォンに触れ、実際に操作することにより活用力を高め、生活の利便性向上につなげる。							
対象	☐ 乳幼児	☐ 小学生	☐ 中学生	☐ 高校生	☐ 保護者	☒ 一般	☐ 高齢者	
周知	☒ 館報	☒ HP	☒ チラシ	☐ その他（ ）				
回	月日		学習主題・内容			講師謝礼金額	実費負担金額	
	開始	終了				講師名		
	定員	参加者						
1	2月5日（水）		Aコース/カメラを利用した情報検索 ・スマートフォンに保存されている写真を使って検索			8,000円	300円	
	10:00	11:30				(株)ジーシーシースタッフ		
	10	8						
2	2月5日（水）		Bコース/地図機能の活用 ・マップの基本的な使い方、周辺施設の検索			8,000円	300円	
	13:30	15:00				(株)ジーシーシースタッフ		
	10	7						

【事業の評価】

評価項目	評価	評価の根拠等
社会的課題や、地域の課題にこたえているか	○	参加者の方にスマホの利便性について学習していただけた
地域のニーズにこたえているか	○	情報格差の解消に貢献できた
企画・事前準備は十分であったか	○	講義の内容など好評であった
学習者の満足度はどうであったか	○	個人的に差が見受けられたが概ね十分であった
学習グループ化や人材育成など、学習成果を地域に還元・波及できたか	△	参加者が高齢者だったのであまり見込めない
事前広報を含め、よりよい周知活動が行えたか	○	回覧チラシや公民館報で周知を行い概ねできた

※成果が十分「◎」、概ね十分「○」、不十分「△」、成果なし「■」で評価

◎=50点、○=40点、△=30点、■=20点で計算し平均点を求める

平均点 38

事業の総合評価	C	※平均点50点以上=A、40点以上50点未満=B、30点以上40点未満=C、30点未満=D
感想・意見	今回のスマホ教室は、スマホ初心者向ではなかったため、スマホに買い替えて間もない方が2名参加され満足度等低い結果となった。他の参加者には好評であった。	
改善点	スマホ教室が、初心者向けの教室か、ある程度スマホを使える方が対象か回覧チラシに明記しなかったため満足度等に差が出てしまった。次回は、初心者向けのスマホ教室の実施を検討したい。回覧チラシには初心者向け等分かるように表記したい。	

次年度の事業継続の評価	維持	※事業の必要性・重要性を鑑み、「拡充」「維持」「見直し」「改善」「廃止」で評価
主な理由等	世代等による情報格差の解消や、生活の利便性向上のために必要な講座である。	

その留意事項等	・テキスト代として実費を徴収
---------	----------------



Aコース



Bコース

様式1

No	14	宮城公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		館報「公民館報 みやぎ」の発行 発行部数：2,300部 仕様：A3両面刷り、2つ折り 特記事項：宮城支所や地域のこども園・小中学校の行事を掲載している。	—		
2	情報発信事業		ホームページを活用した情報提供の充実 ・館報をホームページに掲載 ・公民館主催事業の案内等をホームページに掲載	—		
3	公民館DX事業	実習	紙上講座 QRコードの読み取り方（※）	実10399012 報10421548		

様式2-1

【事業の概要】

No	14	宮城公民館			経費	—		
事業名	情報提供事業				講座区分	公民館D X 事業		
講座名	紙上講座「QRコードの読み取り方」							
ねらい	① デジタル化が加速している中、QRコードの読み取り方を知ること、デジタルデバイトの解消を図る。 ② スマートフォンを活用することで、市民の方の利便性を高める。							
対象	☐ 乳幼児	☐ 小学生	☐ 中学生	☐ 高校生	☐ 保護者	☒ 一般	☐ 高齢者	
周知	☒ 館報	☐ HP	☐ チラシ	☐ その他（ ）				
回	月日		学習主題・内容				講師謝礼金額	実費負担金額
	開始	終了					講師名	
	定員	参加者						
1	2月28日発行		宮城公民館報3月1日号に、QRコードの読み取り方を掲載する。				—	—
							紙面講座	

【事業の評価】

評価項目	評価	評価の根拠等
社会的課題や、地域の課題にこたえているか	○	デジタル化が加速している中、デジタルデバイトの解消を図るよう努めた
地域のニーズにこたえているか	○	スマートフォンの使い方がよくわからないという声を聞くため、開催した
企画・事前準備は十分であったか	○	操作の仕方を調べ、わかりやすい用語を使うようにした
学習者の満足度はどうであったか	△	配布後の地域住民の方の感想を伺う機会を設けなかったため、個別に伺えたと思う
学習グループ化や人材育成など、学習成果を地域に還元・波及できたか	△	操作方法を知ることではできたが、学習成果を地域に還元・波及できてはいない
事前広報を含め、よりよい周知活動が行えたか	○	宮城公民館報に掲載し、地区内毎戸配布をしたため、周知活動はできたのではと思う
※成果が十分「◎」、概ね十分「○」、不十分「△」、成果なし「■」で評価 ◎=50点、○=40点、△=30点、■=20点で計算し平均点を求める		平均点 37

事業の総合評価	C	※平均点50点以上＝A、40点以上50点未満＝B、30点以上40点未満＝C、30点未満＝D
感想・意見	スマートフォンの使い方がわからないとの声を聞くことがあり、また、公民館報にQRコードを乗せることも多いことから、今回QRコードの読み取り方を公民館報に載せた。文字だけでなくスマートフォンの画像も載せ、自宅にしながら知ることができるようにした。今後も講座を続け、デジタルデバイトの解消を図れるようにしたい。	
改善点	スマートフォンの操作の熟練度が異なるため、どのようなことを学びたいか地域のニーズをより把握して、講座内容を検討していきたい。	

次年度の事業継続の評価	維持	※事業の必要性・重要性を鑑み、「拡充」「維持」「見直し」「改善」「廃止」で評価
主な理由等	スマートフォンを活用する場面が多くなっていることから、活用方法を学ぶ機会の必要性を感じている。	

留意事項等	
-------	--

	
掲載した館報	当該記事（拡大）

様式1

No	15	粕川公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分		学習方法	講座名	管理番号	補
1	情報発信事業			館報「粕川」の発行 発行部数：3,700部 仕 様：A3両面刷り、2つ折り	—	
2	情報発信事業			ホームページを活用した情報提供の充実 ・公民館報をホームページに掲載 ・講座開催の周知をホームページに掲載	—	
3						
4						
5						

様式1

No	16	富士見公民館	事業名	情報提供事業		
	講座区分	学習方法	講座名	管理番号	補	
1	情報発信事業		「館報ふじみ」の発行 発行部数：8,000部 仕 様：A4両面刷り	—		
2	公民館DX事業	実習	富士見スマホ教室①	実10162951 報10249642		
3	公民館DX事業	実習	富士見スマホ教室②	実10227270 報10278038		
4	公民館DX事業	実習	富士見スマホ教室③（※）	実10272558 報10341596		

様式2-1

【事業の概要】

No	16	富士見公民館			経費	—		
事業名	情報提供事業				講座区分	公民館DX事業		
講座名	富士見スマホ教室③							
ねらい	① 世代や地域等によるデジタル・ディバイドが生じないように、総務省のデジタル活用支援推進事業を活用し、情報活用能力を習得できるよう学習機会を提供する。 ② スマートフォンを持っても活用できていない地域住民がより便利な機能や使用方法を知り、生活に役立てていくきっかけとする。							
対象	☐ 乳幼児	☐ 小学生	☐ 中学生	☐ 高校生	☐ 保護者	☒ 一般	☐ 高齢者	
周知	☒ 館報	☐ HP	☒ チラシ	☐ その他（ ）				
回	月日		学習主題・内容				講師謝礼金額	実費負担金額
	開始	終了					講師名	
	定員	参加者						
1	11月1日（金）		・アプリを活用して楽しく歩いて健康に♪ ・マイナンバーカードを健康保険証として利用しよう				—	—
	10:00	12:00					ドコモショップ 前橋モール店スタッフ	
	20	15						
2	11月25日（月）		・めぶくPayを使ってみよう♪ ・インターネット検索を活用しよう				—	—
	10:00	12:00					ドコモショップ 前橋モール店スタッフ めぶくグラウンド（株） スタッフ	
	20	16						

【事業の評価】

評価項目	評価	評価の根拠等
社会的課題や、地域の課題にこたえているか	◎	
地域のニーズにこたえているか	○	
企画・事前準備は十分であったか	△	
学習者の満足度はどうであったか	○	
学習グループ化や人材育成など、学習成果を地域に還元・波及できたか	△	
事前広報を含め、よりよい周知活動が行えたか	○	

※成果が十分「◎」、概ね十分「○」、不十分「△」、成果なし「■」で評価
 ◎＝50点、○＝40点、△＝30点、■＝20点で計算し平均点を求める

平均点 38

事業の総合評価	C	※平均点50点以上＝A、40点以上50点未満＝B、30点以上40点未満＝C、30点未満＝D
感想・意見	昨年度まで年1回の開催だったが、国の補助金制度を活用し、3回目の講座を開催することができ、もともと地域住民の要望も多かったので、よかった。	
改善点	補助金活用の関係で、講師とのやり取りをにぎわい商業課に任せていたので、講師との間に認識の違いや準備不足な点があった。やはり講師には直接確認した方がよい。	

次年度の事業継続の評価	維持	※事業の必要性・重要性を鑑み、「拡充」「維持」「見直し」「改善」「廃止」で評価
主な理由等	地域住民の要望があるため。	

留意事項等	
-------	--



講義の様子



スタッフによるサポートの様子